
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 19

1954年 10月



倉敷昆虫同好会

目 次

朽木を食するカストムシの飼育 (1).....	赤 枝 一 弘	1
おとしぶみ		2
玉島のシロスジコガネ	小 野 洋	2
西大寺近隣産蛭二種	赤 枝 一 弘	2
中学生の採集した昆虫.....	水 野 弘 造	3
編 集 後 記		4

朽木を食するカストムシ幼虫の飼育

(1)

赤 枝 - 34

私は1954年4月3日西大寺市金山に於て高さ約1m、直径50cmくらいの松の切株の朽木たの左おさつていたら偶然にも甲虫の幼虫に行きあたり、最初クワガタ虫の幼虫かと思つたが調べて見るとカストムシらしかつた。以下はその飼育記録である。尚その時の幼虫の体長を不覚にも測つてないが100mmくらいあつたようだ。しかもその時同時に20mmくらいの幼虫も2頭目撃している。100mm あつた幼虫が7月中旬に成虫になることを考へて見ると、当然20mmしかない幼虫は成虫になれぬはずである。このことから少くともカストムシの一代は2年はかゝるとゆうことが云えるのではないかと思ふ。前置きはこのくらいにして、

4月10日

今日3頭の幼虫を探り、1頭は私が自宅へ持つて帰り他の2頭は西大寺高生物部と大道寺君宅でそれぞれ飼育した。しかしながら他の2頭は死んで自宅のものだけ次第調に成長した。飼育方法は高さ130cm、直径60cmの広ロビンへ手をほぐせる程度の朽木を中へ入るくらいの大きさに割つて入れた。

4月11日

昨日入れた朽木は殆んどばらばらにされている。

5月12日

今日見ると体の色が白色から茶色おびて来たようだ。

5月27日

4月10日にいっぱい入れてやつた朽木が完全に腐ばかりになつてしまつたので、今日全部入れかえてやつた。

6月25日

茶色がいつそうこくなつたようだ。動きも不活発となつた。

6月28日

全然食を取つてないようだ。自分の体の入るだけのすきまを作りじつとしている。びんを振つてやると体をくわらすだけだ。

7月1日

今日見ると蛹になつていた。昨日の晩から今日の朝にかけて蛹化が行われたのであろう。さであり、カストムシとしてはあまり大きい方ではない。

後 記

あまり期待していなかつたので観察が不十分であるし、むつと夏敷の大小の幼虫を飼つて見

るべきだが、それはまた次の機会に廻そう。

以上のことについて、文献を調べて見ると、

日本昆虫図鑑(北隆館)には、クワガタ虫科の幼虫は朽木に住み、カストムシは堆肥等の下に住むとなっており、

日本甲虫図鑑(西ヶ原刊行会)横山桐郎著、にはカスト虫幼虫は、濕潤せる處又は有機質に富める土質内に棲息するとなっている。その他の文献もたいがい堆肥中に住むとなっている。

しかしながらアースルの昆虫記、岩波文庫第78分冊には、欧州カスト虫幼虫は撤換した古い切株が土の下で腐葉土のために朽ちているのに住むとなっている。

欧州カスト虫はどんなものか私は知らぬが、もし近縁のものであるなら日本産カスト虫が朽木を食しては不思議ではない。

しかしながら私が朽木を食するのを見たのは今回が初めてであり日本に於ては珍しいのではないかと思う。

理 生物、地学標本模型
化 昆虫採集用具
学 テレビ、ラジオ、真空管
器
城 島津製作所岡山県代理店

テ
ー
ス
コ
ー
タ
ー

サカ工商会

倉敷市栄町(赤木病院西) 電 913番

で報告する。

(小野 洋)

おとしづみ



玉島のシロスジコカネ

先日、玉島の小学校で催された夏休取作品展を見たところ、他の多くのコガネムシ科の標本に混つて本種 *Grandida albolineata* Motschulsky の標本が意外多いのに気付いた。事実玉島市地方では、その発生期には夜焚火に罹来する本種の数は少なくないとのことであつた。

倉敷市地方では従来あまり見ない種として知られているが、高梁川一つ隔てた向う側ではかなり発生している事を知つたの

西大寺近隣産蟬二種

1. *Oncotympana maculaticollis*

Motschulsky ミンミンゼミ

本種は西大寺に於ても多いものではない。しかしながら芥子山で採られている標本をかなりみかけるし、壺の口に於ても8月22日、1954年、に行つた時2頭の鳴声も聞かれた。さらに9月12日、1954年、に1頭聞かれた。又本種が西大寺の住官地に於て2~3頭採れたと聞く。詳しいことは知らないがよつとした空地の本でなっているようだ。この事については又よく調べてみるつもりである。

2. *Melampsalta radiator*

Uhler 4ツギゼミ

本種は西大寺に於ては未記録であつたが電

の口に少なからず産することを知ったので報告する。8月22日に行つた時には気がつかなくなつたが、9月7日には中腹(約150羽)あたりからツクツクボウシにまじって声が聞かれるようになりさらに頂上(約250羽)ではツクツクボウシに打消されがちだ水気左つけるとかなり多数の鳴声も聞かれる。私は1♀を採集した。これは地上約30羽ぐらいの雫のくきにとまつていた。(赤松 弘)

中学生の 採集した昆虫

水野 弘 造

昨年の夏休み総社西中学校では二年生が夏休みの課題として昆虫採集をさせられた。秋になってこれらの展示会があったので、どんな虫が採られているか調べて見た。採集せられた虫はかなり限られていたので調べるのはおぼろげな水中にはクモ等もあつたり、騎粉のはげた蟻などあつたりして困つたこともある。全部個体数が調べられなかつたので残念であるが、蝶、蜂、トンボ、甲虫はその数もわかつている。蛾その他は概数である。

蝶	35種	314個体
蜂	5種	176 "
トンボ	約25種	405 " {不明種 77個体}
甲虫	31種	122 "
蛾		約100 "
その他		約100 "
計		約1200 "

志 賀 製 品

昆虫・植物採集用具

理化学器械

岡山市西中山下(柳川交叉点東)

長瀬教育堂

電話 4725 番

これを見てわかるようにトンボの類は蝶もよく採られ、蝶・蜂、甲虫の類になる。甲虫・蛾が少かつたのは意外なつたが、これは小さいものが多く、美しいものが少ないためだろう。トンボ、蜂のように子供になじみの深いものも次々採られているのは面白い。特に蜂等は5種で1クワ頭も採られているのだから驚く。ついでにベストテンを書いておこう。

- | | |
|--------------|------|
| (1) アスラゼミ | 82頭 |
| (2) シオカラトンボ | 79 " |
| (3) カトリヤンマ | 61 " |
| (4) ニイニイゼミ | 57 " |
| (5) ハスロカワトンボ | 51 " |
| (6) ナツアカネ | 36 " |
| (7) アケハ | 31 " |
| (8) クマゼミ | 31 " |
| (9) モンシロクヨウ | 30 " |
| (10) カストムシ | 27 " |

以上のようにほとんどトンボと蜂である。その他20頭以上のものをあげると、

- | | |
|---------|----|
| ハラビロトンボ | 25 |
| ヒメジヤノメ | 23 |
| キマタラヒカケ | 23 |

キタヨウ	20
ヒカケ4ヨウ	20
ギンヤンマ	20

となつてゐるから、蝶がそれについて愛いことわかる。(尚蝶その他については不明)蝶については僕が好きなのでよく調べたから一寸書いてみよう。

蝶は普通なもの(例えばモンシロ、アゲハ等)は沢山いるが、夏くの種類の集めようとする場合には普通の人は一寸骨が折れるであろうが、ヨク種も採っている所を見るとかなり探し歩いたにちがいないと思う。夏休みには得がたいオオミドリ、ウラナミアカシジミを採っていた者もあつた。一寸目を引いたものにアサギマタラチがある。後で採集地を聞くヒ輪社町田町だと云う。田町と云うヒ僕のいる所だ。こんな平地にでもいるものと不思議に思つた。その他ホシミスジが75頭あつた。大体に於て中形以上の大きな蝶がよく採られており、アゲハ科(72)、ジヤノメ科(84)、タテハ科(42)、シロ4ヨウ科(62)に対してシジミ科(35)、セセリ科(18)等小さな蝶は少い。

蝶ではアスラゼミ(82)、ニイニイゼミ(57)、クマゼミ(37)、ミンミンゼミ(3)、ツクツクホウシ(3)、ヒミンミンゼミは少いので3頭しかとれないのも分かるが、ツクツクホウシは少し少いように思う。しかし他のものはいずれも非常に沢山とられている。これは日本人が蝶になじみが深い証書ではあるまいか。ヒクラシはいなかつた。

トンボではシオカラトンボ、カトリトンボ、ナツアカネ等大型なもの、よく目につきやすいものもあつた。中にはギンヤンマ(20)のように思つた程多くないものも

あつたが、僕には同定出来ないものが17頭あつた。甲虫はひどく数が少なかつた。カミキリムシは7種24頭、コガネムシは11種70頭その他28頭で5個体以上採られているものは、コマダラカミキリ(70)、クワカミキリ(7)、カストムシ(27)、オオコフキコガネ(5)、ドウガネスイスイ(74)、ハンミョウ(7)、のみみ残りは4頭以下である。

蝶その他のものは調べなかつたので残念ながらよく分らない。あまり夏くなかつたように思う。全体としてどんな虫がよく採られたかを考えると、結局大きくて美しく、よく目につきやすいものであると思われ。それに採りやすいと云ふことも関係するのではなからうか。大変つまらないものであるが一寸面白く思われたので書いてみた。ついでに、僕もこの展示会に大山で採集した蝶類を出品したが、アサギマタラの完全な標本を誰かがこわしてしまつて非常に残念な思いをしたものだった。



秋も深まり秋祭の太鼓の音が聞
後編 える頃となりました。例年なら
記集 秋の風物である赤トンボがそよ
風に吹かれながら電線に並んで止つてい
ると云う風景がよく見かけられる頃ですが、
今年は(8月9日の編集氏が書かれたように)
赤トンボ一匹でさ文町中で見る事出来
なくなりました。虫屋としても一般の人達
にとつても大変さびしい事だと思ひます。
さて本号です赤トスの赤坂氏のものはい
まりやられてない甲虫の飼育だけに面白い
ものと思ひます。尚これは来号の(2)をも
つて終ります。尚御投稿下さる方はできる
だけ原稿用紙を御使用下さる様お願ひす。

すずむし 第4巻 第10号 昭和29年10月23日印刷
昭和29年10月28日発行

編集兼
発行 著者 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會